

ケーンハーベスタによる採苗と無選別蔗苗の適切な植付けによる省力作業体系

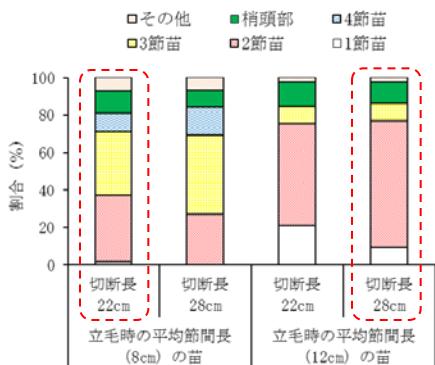
小型ケーンハーベスタによる採苗法とビレットプランタによる植付けにより、新植栽培の作業時間の大幅な削減と同等の収量を実現

研究開発の背景

- ・サトウキビの新植栽培における作業時間は約30時間/10aで、うち採苗から植付け作業が半分を占める。
- ・近年、収穫作業に用いられるハーベスタを利用した採苗と、ビレットプランタを利用した植付け作業が大規模農家の一部で導入されているが、適切な採苗長さや植え付け本数が不明で、大幅な植付け本数の増加と発芽の不安定が課題となっている。

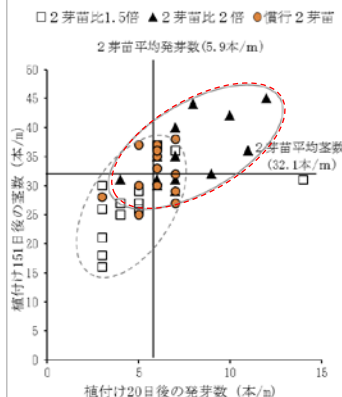
研究成果の内容

小型ケーンハーベスタによる適切な採苗長さ



サトウキビの節間長に応じて、切断長を調整することで2芽苗以上が増加し、健全芽子を確認

ビレットプランタによる適切な植付け本数

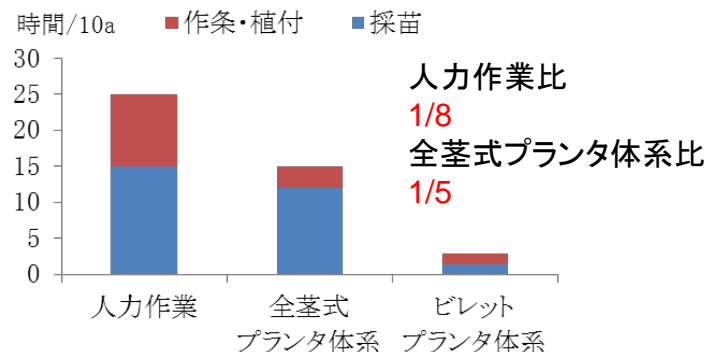


植付け20日後の発芽数と植付け151日後の茎数 (2011年9月植付)

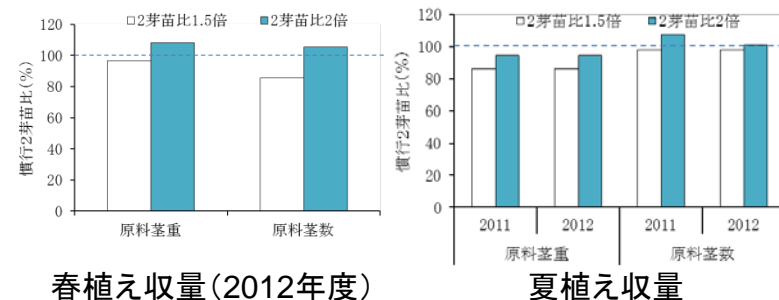
植付け本数を、慣行の2芽苗に対して2倍にすることで、慣行を上回る生育期間の茎数を確保

導入メリット

採苗・植付け作業時間が大幅に削減



慣行の2芽苗に対して、植え付け本数を2倍にすると収量は同等



期待される効果

- ・新植栽培の作業時間は、30時間/10aから17時間/10aに短縮され規模拡大や経営改善に寄与。
- ・サトウキビ生産の省力化による増産。

開発機関: 鹿児島県農業開発総合センター、鹿児島県糖業振興協会 【予算区分: 鹿児島県糖業振興協会委託事業】

導入をオススメする対象
鹿児島県の規模拡大を目指すサトウキビ
大規模経営体

問い合わせ先: 鹿児島県農業開発総合センター徳之島支場 TEL 0997-86-2004